



- 立科小学校／午前9時～午前11時30分
電話 56-3131 (呼)・有線2190 (呼)
- 立科中学校／午後2時～午後5時
電話 56-1076 (呼)・有線2251 (呼)
- 立科町児童館／
午前 11時50分～午後 1時40分
電話 56-0303(直通)・有線 8888 (直通)
(担当 指導主事 中島一彦)

指導主事だより

なんだかうれしい

教育委員会

地域性の回帰ということ

細谷のお堂から西塩沢方面に向かう道路沿い。高台にしがみつくように作業をされているおじいさんと、おばあさんの姿が目にとまります。

荒れ地に向き合い、枯れ木を伐採し、枯草や藪をコツコツと片付けられていました。

そんなお二人の日々の姿は3年の月日の中で、積み重ねられていきました。

やがて、荒れ果てた丘は、色とりどりの花々が咲き乱れる丘になっていきます。

お二人の作業は、その周辺の道路や用水路にも及んでいきました。ある時は、道路わきの埃が堆積し、根を張った雑草を、お二人で力を合わせ、取り除き、何回も何回も泥を運び出されていました。

さらに周辺に投げ捨てられるゴミ拾いを始められていきます。車で通るたびに目にするビニール袋ごと放り出されるゴミのいくつか。それを手にされたお二人は、そのゴミ袋をご自宅に持ち帰ります。

子ども達が、登下校の道すがら、地域のおじいさん、おばあさんと挨拶を交わし、コミュニケーションをとる日常が流れているということ、そのことに豊かさを感じるのです。

地域の中で知らなかったおじいさん・おばあさんが、子ども達を受け入れ、安心して声をかけられる大人としてつながり合いが深まっていく。

道すがらアサガオの花の美しさに目をとめる子どもたち。そのアサガオに毎朝、水やりを続けるおじいさんに「やさしいおじいさん」と声をかける女の子。どれほどに温かさを感じながら、元気を出して学校に向かうであろう子どもたちであることか。

ただよう温かさが目に浮かびます。

「知らない人は信頼できない」という近年の社会の前提。「知らない人でも信頼できる」というかつての前提を、このおじいさんとおばあさんは生み出してくださっているのです。

立科町ってすごいなあ・・・しみじみと思います。

地域の空洞化が叫ばれて、コミュニティーが失われている昨今。ゴミを拾われ、片付ける行為からは「自分たちでやれることはやる」の精神を学ぶことができるのです。こうした自立の姿を目にする子どもたちは、自然に自立することを身に付けていきます。善意や自立のあふれるコミュニティーの中で暮らす環境こそが子どもたちを育てます。

地域の方々の姿に学びながら、学校や家庭もまた、子どもたちの自立と安定の縁(よすが)としての空間を保障していく場であってほしいと思います。同時に、地域性を回帰していく人々の姿の中に立科町の子育ての可能性を垣間見るのです。

カップ麺の汁がこびりついたり、糖分や油分がしつこいほどに張り付いたりした容器をひとつひとつ分別しながら、収集所に運び入れます。ただただ頭がさがるのです。ゴミを見るたびに不愉快な気分だけは持ち続けた自分と、そうではない、それを片付けるおじいさんとおばあさん。

そんなお二人に声をかける機会にも恵まれ、お話をお聞きすることもできるようになりました。季節の花のこと、野菜や土のこと、様々な経験を教えていただきました。学校の子どものこともお話していただきました。

「登下校の子ども達が、声をよくかけてくれる」というお話。立科の子ども達はみんな良い子だよ。アサガオに水やりをしていると、「やさしいおじいさん、おはようございます」なんていう声をかけてくれる。

トイレをかりにくる子、「今、何時ですか?」と家の中に向かって聞いていく子・・・。

そんな子どもたちに、やさしく応じ続けるおじいさんとおばあさん。



できないかも・・・

できないかも・・・

でも、やってみる!